

2023(令和5)年度 第2回公共図書館部会幹事会記録

- ・日時 2023(令和5)年5月19日(金) 午後2時～3時40分
- ・場所 日本図書館協会会館及びZoom並びに委任状、書面決議による会議
- ・幹事現員数 16名
(会場出席幹事2名、Zoom出席幹事11名、委任状1名、議決権行使2名)

会場出席幹事2名：

齋藤明子(前橋市立図書館)、吉本馨(大阪府立中央図書館)

Zoom出席幹事11名：

小田部修一(茨城県立図書館:部会長)、仁和由紀人(青森県立図書館)、菅原敏紀(秋田県立図書館)、柴雅房(静岡県立中央図書館)、清水俊治(愛知県図書館)、歌保晴(和歌山県立図書館)、杉本幸三(高知県立図書館)、松崎ちはる(福岡市総合図書館)、吉永明彦(熊本県立図書館)、赤沼知里(個人会員選出)(以下同じ)、中川恭一

委任状提出幹事1名：永田朱美(岡山市立中央図書館)

議決権行使幹事2名：

田村俊作(石川県立図書館)、水澤弘幸(個人会員選出)

事務局：

鈴木隆(日本図書館協会副理事長)、高橋正名(日本図書館協会専務理事)、磯田夏実(日本図書館協会総務部)

会議開催前に植松貞夫日本図書館協会理事長から挨拶があった。

続いて、小田部部会長から挨拶及び茨城県内の様子の報告があった。

・茨城県では、新型コロナ対応から経済を回すことを中心に方向転換しており、県内会議は対面に戻りつつある。

議事の進行

部会規程第10条第6項により、小田部修一部会長が議長となり議事を進めた。

幹事会開催要件

部会規程第10条第7項の幹事会開催要件、幹事の出席過半数を超えて

いることを確認した。その内訳は会場出席 2 名と Zoom 出席 11 名及び委任状 1 名、議決権行使 2 名の確認をし、幹事会の成立を議長が宣言した。

各幹事自己紹介

各幹事から自己紹介及び県内図書館の状況報告をいただいた。

・青森県では、黒石市に 2022 年 7 月に延べ床面積 1,270 m²、10 万冊収容可能な図書館が開館。また青森県立図書館では、閲覧サービスの充実など電子図書館への取組を進めている。

・秋田県では、市街地の賑わい創出として鹿角市・横手市・湯沢市で駅前周辺に複合施設建設が進んでいる。秋田県立図書館では、郷土資料のデジタルアーカイブ、県出身の作家等の原稿・創作メモ等のデジタルアーカイブ化を進めている。

・静岡県では、令和 9 年度を目途に新館オープンを目指し、基本設計を終えた。JR 東海道線の駅の上で、アクセスや収蔵能力飛躍的に、直接サービス底上げを検討するため、調査・見学のご協力をいただきたい。

・前橋市でも、令和 9 年度に竣工予定の新図書館の基本構想を策定中。コロナ関係の交付金で電子図書館や IC タグ導入で自動貸出も。今後、調査等についてご協力をいただきたい。

・愛知県では、開館後 32 年が経過し、基本的運営方針を予定より 1 年前倒しして見直した。新しい取り組みとしては、県立図書館と市町村立図書館の職員による人事交流として、2、3 週間程度の研修を検討している。

・大阪府では、コロナが 5 類になり、閲覧席は元に戻したが、アクリル板は残している。この春 IR 推進局から異動してきたが、以前教育委員会で図書館司書採用をしていた。

・和歌山県では、人数制限をしながら事業を行ったが、知事の意向や地域性もあり、これまで 1 日も閉館しなかった。複合施設が 2 カ所開館した影響もあり、来館者数は戻っていない。

・高知県では、オーテピア高知図書館が県と市で共同運営し、5 周年を迎えた。来館者累計 400 万人突破。貸出数は 110 万点前後で推移。電子雑誌閲覧サービスを令和 3 年 7 月に全国初で試行的に始めた。昨年 4 月から本格実施。平成 29 年度から貸出型の電子書籍サービスもはじめ、今年度は閲覧型のキノデンを 4000 タイトル導入予定。市町村立図書館の整備が遅れ

ていたが、ここ5年間で3館整備、向こう4年間で5館の整備予定。県も精力的に支援。テレビ放送によって牧野富太郎関連の賑わいがあり、図書館としても取り組んでいる。

・福岡市では、分館老朽化で今後順次改築時期になり、リニューアルした館も。館がリニューアルしても所蔵図書は古いままとの指摘もあるが、予算上対応困難。令和3年から電子書籍を導入するも継続して経費を要し、費用の負担が大きい。総合図書館には250席の映画館併設。

・熊本県では、大阪・神戸・岩手に次いで安藤忠雄氏プロデュースの子ども図書館が県立図書館の敷地に建設予定であり期待が高まっている。

・個人会員選出の赤沼幹事は、この春から千葉県立西部図書館館長となった。千葉県立図書館は3館あり、1館に集約する準備中。昨年度基本設計実施。今後調査等のご協力をいただきたい。図書館のなかった富津市に新しい図書館が開館したほか、松戸市・流山市の地域館ができた。また、千葉市でリニューアルがあった。館内では、コロナ期間中に講習会のオンライン併用が定着した。

・同じく個人会員選出の中川幹事は、2年前に西東京市立図書館館長を定年退職し、現在は白百合女子大学で司書課程の授業を5科目行っている。現職時には電子書籍導入は踏みとどまった。電子書籍に関しては必ずしもバラ色とは思っていないが、今度の動向を注視していきたい。日本図書館協会では、『日本の図書館』調査委員会委員長、図書館建築委員会委員を務めている。

議事

1 議案第1号 2023(令和5)年度公共図書館部会幹事の選手について(変更)

選出単位中国四国地区の永田朱美氏(岡山市立中央図書館)について、原案どおり拍手で賛成多数で承認された。

2 議案第2号 2023(令和5)年度公共図書館部会長・副部会長の選出について

部会長は東海北陸地区の清水俊治氏(愛知県図書館)、副部会長は関東甲信越静岡地区の小田部修一氏(茨城県立図書館)、北日本地区の菅原敏紀

氏(秋田県立図書館)について、原案どおり賛成多数で承認された。

3 議案第3号 2023 - 2024 年度日本図書館協会理事候補者の選出について

清水俊治氏(公共図書館部会長・愛知県図書館長：東海北陸地区)について、原案どおり賛成多数で承認された。

4 議案第4号 2022 - 2025 年度公共図書館部会代議員候補の推薦について(追加)

中国四国地区の永田朱美氏(岡山市立中央図書館)と九州沖縄地区の古賀由紀子氏(佐賀県立図書館)について、原案どおり承認された。

報告

以下6項目は第1回幹事会等で承認を得たものであるが、改めて報告を行った。

報告1 2023(令和5)年度第1回公共図書館部会幹事会議決権行使の結果について

報告2 2023(令和5)年度公共図書館部会総会の開催について

報告3 2022(令和4)年度事業報告及び決算報告について

報告4 2023(令和5)年度事業計画及び予算について

報告5 全国公共図書館研究集会の開催地区及び留意点について

報告6 2022年度実施図書の購入等についてアンケート調査

以上をもって2023(令和5)年度第2回公共図書館部会を終了した。

なお、次回の幹事会から出席いただいた幹事については挙手で賛成の意思表示をお願いすることとなった。また、来年2月頃開催予定の幹事会は、今年12月頃に日程調整をする予定である。